

1

W.A.モーツァルト (1756-1791)

弦楽三重奏のための

ディヴェルティメント変ホ長調 KV563

player ヴァイオリン：朝枝 信彦 (松江クラシックス音楽祭音楽監督)  
 ヴィオラ：吉瀬 弥恵子 (元兵庫県立芸術文化センター 管弦楽団次席)  
 チェロ：田中 次郎 (神戸市室内管弦楽団副首席)

3年後にその生涯を閉じることになる、作曲家32歳の作品(1788年)。その頃モーツァルトの経済状態は次第に悪化し始め、その打開策として弦楽五重奏曲の予約出版を企てるが、結局これも徒労に終わり、さらに父レオポルドの死が追い打ちをかける。そんな晩年のモーツァルトに救いの手をさしのべたのが、裕福な織物商人でフリーメーソンの盟友でもあったプフバルクだった。その親友の依頼により作曲されたこの傑作は、ディヴェルティメント(自由な形式の器楽曲)という娯楽的な目的から離れ、弦楽三重奏という切り詰めた楽器構成と高い音楽性をその特長としている。記録によれば作曲家自身がヴィオラを受け持ち、少なくとも2回の演奏を公の席で行った。ちなみに最後の交響曲第41番「ジュピター」はこの作品のひとつ前月に書かれている。

第1楽章 アレグロ  
 第2楽章 アダージョ  
 第3楽章 メヌエット アレグレット  
 第4楽章 アンダンテ  
 第5楽章 メヌエット アレグレット  
 第6楽章 アレグロ

— 〈休憩〉 —

フレンズの会  
 コンサート

2018年 6月3日(日)

〔時間〕 14:00開演(13:30開場) 〔会場〕 鹿島文化ホール

主催/松江クラシックス音楽祭フレンズの会

2

J.ブラームス (1833-1897)

クラリネット五重奏曲口短調 作品115

player 第1ヴァイオリン：朝枝 信彦  
 第2ヴァイオリン：春木 研人 (島根大学)  
 ヴィオラ：吉瀬 弥恵子  
 チェロ：田中 次郎  
 クラリネット：三島 正巳 (松江市)

モーツァルトのクラリネット五重奏曲と並び称される、クラリネット作品の名曲中の名曲。作曲家58歳の1891年5月、夏の休暇を過ごしていたオーストリア北部の保養地イシュルにおいて、彼は「イシュル遺書」を書く。死を意識して、身辺整理を始め、作曲活動からの引退も考えるようになっていたのである。そのブラームスの前に、ドイツのマイニンゲン宮廷楽団のクラリネット奏者ミュールフェルトが現れる。きわめて優れたこの音楽家との出会いによって、ブラームスの創作意欲は再び燃え上がり、7月にクラリネット三重奏曲を、そして翌月に本作品を完成させた。以前のクラリネットから構造、音域、音色の面で変化を遂げつつあった楽器の特徴を把握してそれを生かし、諦念と厭世、秘めた情熱と憧憬、ハンガリー的色彩など晩年の作品の特徴がよく表れている。ブラームス晩年の創作の頂点とも評される作品である。

第1楽章 アレグロ  
 第2楽章 アダージョ  
 第3楽章 アンダンティーノ  
 第4楽章 コン・モート

